

ちやのみ（赤穂市坂越）

ある日、庄屋〈しょうや〉が呼ばれて殿様〈とのさま〉のところへまいりますと、殿様は庄屋に、なるべくたくさん茶の実〈み〉をあつめてくるようにといいつけました。

少し、耳のとおい庄屋は、「茶の実」を「茶飲み」と聞きちがえて、さっそく茶飲みをさがしました。

妙〈みょう〉なもので、たちまち、「わたしは、お茶を五合（〇・九リットル）飲みます。」「いや、わたしは一升ぐらい（一・八リットル）飲みます。」というのが、四、五人もでてきました。

庄屋は、この人たちを引きつれて殿様の前へいきました。殿様は驚いて、「そんなものが生〈は〉えるか。」と、お叱りになりました。庄屋が困っているのをみて、茶飲みどもは、「はい、はい、ボツ、ボツはえます。」と喋りつづけて、畳〈たたみ〉の上を、ガサガサはいました。

